進路情報「路（みち）」No.9

2022年　10月24日　発行
泡瀬特別支援学校　進路指導部

2学期がスタートし２ヵ月が過ぎようとしています。日中は日差しもだんだんと和らいできましたね。

さて、今回の「路」は本校を卒業して、社会で頑張っている先輩の紹介第2弾！令和元年度卒業の「宮城怜旺（れお）さん」です！泡瀬特別支援学校高等部卒業後は就労移行支援事業所で訓練を重ね、自らの強い希望であった「就労継続支援Ｂ型　愛音楽（アネラ）ハウス」へ！本校在学中から「粘り強く、諦めない」が彼の持ち味でした！

琉球新報

（令和４年１０月９日（土））

ていーだ

就労継続支援Ｂ型事業所
「愛音楽はうす」
宮城 怜旺さん

パソコン駆使 正確に入力

パソコンを駆使して歌詞を入力するのは就労継続支援Ｂ型事業所「愛音楽はうす」の宮城怜旺さん（20）＝うるま市。打ち込んだデータは年に2回開催される愛音楽音楽祭のスクリーンに映し出される。聴覚障がい者も楽しめるように作成されるもので、重要な役割を任されている。

脳性まひによる四肢障がいがあり、入力はゆっくりだが、できるだけ自分一人で最後まで取り組んでいる。最初は2人で作業を分担していた。入力する文字が分かるようにキーボードにひらがなが書かれたシールを貼ったり、マウスの代わりにレバーで操作できるようにしたりと工夫し、今ではほとんど宮城さん一人で担っている。

歌詞の入力は2年ほど前から行っている。パソコン操作や文字の入力に慣れていなかったため、最初は大変だったという。勉強しながらの仕事だった。今ではパソコンソフトの操作にも慣れ、漢字の変換も写真の挿入もお手のものだ。職員は「今後は動画編集もお願いしたい」と宮城さんの成長と技術力に期待を寄せている。

音楽祭当日は運営側として大活躍した。ステージ上の進行に合わせてスクリーン表示の切り替えを担当した。ステージでは予測できないことが起きることもあるため、臨機応変に対応する必要がある。タイミングを合わせて切り替えを行い、音楽祭の成功に貢献した。

これまでに作成した歌詞カードは20曲以上。CDジャケットやチラシの文字入力も頼まれる。時間はかかっても集中力を切らさず、正確に入力する。パソコン操作は得意だと大きくうなずいた。（金盛文香）

パソコンを使って入力作業をする宮城怜旺さん＝9月29日、沖縄市の愛音楽はうす

本校在学中はｉＰａｄのタッチ操作を中心に学んでいました。しかし、実習を行った事業所でWindowsPCにキーボードを使用し、入力している状況を目の当たりにしてから方向転換！

学校でも平仮名シールを貼り付けたキーボード入力に取り組みはじめました！

当初、慣れないキーボード入力にかなり苦戦していました。しかし、粘り強く取り組んでいた怜旺さんは、毎時間諦めることなく取り組んでいました。その粘り強さが今も発揮できているのだと思います！

高校3年時担任
上原直衛先生の話